

令和3年12月八峰町議会定例会会議録（第2日）

令和3年12月16日（木曜日）

議事日程第2号

令和3年12月16日（木曜日）午前10時開議

第1 会議録署名議員の指名

第2 一般質問

出席議員（12人）

1番 水木 壽保	2番 山本 優人	3番 奈良 聡子
4番 腰山 良悦	5番 須藤 正人	6番 芹田 正嗣
7番 見上 政子	8番 菊地 薫	9番 笠原 吉範
10番 芦崎 達美	11番 皆川 鉄也	12番 門脇 直樹

欠席議員（0人）

説明のため出席した者

町長	森田 新一郎	副町長	日沼 一之
教育長	川尻 茂樹	総務課長	和平 勇人
税務会計課長	成田 拓也	企画財政課長	高杉 泰治
福祉保健課長	石上 義久	教育次長	山本 節雄
産業振興課長	山本 望	農林振興課長	浅田 善孝
建設課長	石嶋 勝比古	農業委員会事務局長	工藤 善美
生涯学習課長	今井 利宏	学校給食センター所長	田村 高夫
防災まちづくり室長	内山 直光	総務課副課長兼 新型コロナウイルス 総合対策室長	菊地 俊平
福祉保健副課長兼 新型コロナウイルスワクチン 接種対策室長	若狭 正和	農林振興課副課長	堀内 和人

議会事務局職員出席者

議会事務局長	佐々木 高	議会事務局庶務係長	須藤 佳奈子
--------	-------	-----------	--------

午前10時00分 開 議

○議長（門脇直樹君） おはようございます。

ただいまの出席議員数は12名です。定足数に達しておりますので、これより会議を開きます。

日程第1、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員は、八峰町議会会議規則第124条の規定により、11番皆川鉄也君、1番水木壽保君、2番山本優人君の3名を指名します。

日程第2、一般質問を行います。

順番に発言を許します。9番笠原吉範君。

○9番（笠原吉範君） おはようございます。傍聴の皆様には、寒い中、足下の悪い中、ご苦勞様でございます。

議席番号9番笠原吉範、一般質問いたします。

ちょっとマスクで曇りますので、一般質問の間、取らせていただきます。

1問目は、原油高の影響を受けている漁業者・農業者への支援であります。

原油価格の高騰により、国民生活に大きな影響が出ております。灯油の需要期を迎え、町民の中にも行き先を不安視する声があります。特に原油高の影響を受けているのは、農業者と漁業者です。漁業者においては、操業を見送る日も多く、その対応に苦慮しているとの報道があり、農業においては、シイタケ栽培農家に伺ったところ、コロナ禍で低迷した価格が冬場の需要期を迎え回復傾向にあったが、灯油価格の上昇で経営が苦しいと話しておりました。漁業者・農業者へ支援が必要と考えますが、町長の考えを伺います。

続いて、中浜地区中心部整備事業の宅地分譲公募についてであります。

中浜地区中心部整備事業の事業スケジュールでは、令和4年7月に公募開始となっております。現在、町が考えている公募条件の内容をお知らせください。

また、中浜地区活性化のため、地域行事への参加や避難訓練への参加、消防団への加入などを公募に加える考えはないでしょうか。

この2点について伺います。よろしく願いいたします。

○議長（門脇直樹君） ただいまの9番議員の一般質問に対し、当局の答弁を求めます。森田町長。

○町長（森田新一郎君） おはようございます。傍聴の皆様には、朝早く、また寒い中、

また足下の悪い中、傍聴に来ていただきまして本当にありがとうございます。

それでは、笠原議員のご質問にお答えします。

原油価格高騰の影響につきましては、ガソリンや灯油価格などにとどまらず、その他の燃料費や光熱費を押し上げ、生産現場や物流のコスト上昇に直結し、様々な製品や漁業、農産物にも影響を及ぼすことが懸念されています。

町の漁業現場において、一番影響を受けるのは底曳き網漁で、1回の操業で約400リットルの重油が必要だと伺っております。重油単価は、現在は1リットル当たり106円程度で推移しており、昨年より30円ほど高い状況が続いています。また、11月における底引き網漁の操業日数は、時化が続いたことにより概ね5日間程度にとどまっておりますが、今月に入りようやく操業できる状況となり、ハタハタ漁も沖合漁のまとまった水揚げがあり、豊漁が期待されるところです。

町から漁業者への支援としては、事業継続臨時給付金としてこれまでに37件、1,474万7,000円を助成しており、うち底引き網漁事業者には7件、350万円を助成しております。

農業においては、新型コロナウイルス感染症の影響等による米の概算金の大幅下落をはじめ、野菜相場も温暖な天候が続いたことにより順調に生育し増量基調となったことから、価格が低迷していることは私も認識しております。

シイタケの状況について、JAに確認したところ、販売単価については、これから鍋の需要期に入ることから単価の上昇が期待されましたが、県内外の米農家が今年産の作業を終了したことで、シイタケ栽培に着手、市場に出回る量が潤沢になったことや、野菜の価格低迷の影響もあり、11月の市場価格は下落傾向にあり、また、暖房等で使用する灯油代は、例年の1.5倍ほどかかり増ししている状況と伺っており、厳しい経営状況にあると言えます。

シイタケに関しては、今年7月に「JAきのこ部会」より、新型コロナウイルス感染症の影響による消費需要の大幅減少、単価安に対する支援の要請書が提出されており、その際、町では、有限会社峰浜培養に要請に対する支援について働きかけを行い、有限会社峰浜培養ではホダ木単価を2円値引きする支援を実施したほか、JA秋田やまもとにおいても、パックセンターでの処理数量に対して1パック当たり2円の特別助成を実施しております。

また、シイタケには、販売価格が著しく低落した場合に価格差補給金を交付し、生産

者の経営に及ぼす影響を緩和する制度として「特定野菜等供給産地育成価格差補給事業」があり、生産者が同事業に加入するために支払う負担金の3分の1について町が負担する支援を行っております。

いずれにいたしましても、原油高騰による影響は、農業や漁業に限らず広範囲にわたることから、今後は、国や県が打ち出す支援策を注視しながら対応を検討してまいりたいと考えております。

2問目の「中浜地区中心部整備事業の宅地分譲公募について」のご質問にお答えします。

「中浜地区中心部整備事業」につきましては、定住移住に繋がりやすい遊休地である旧八森町役場跡地の有効活用、「若い大人を増やす」取り組み、中浜地域の活性化などの観点から、町が宅地造成した100坪ほどの土地を子育て世帯等に無償提供する計画としております。

町が行う宅地分譲につきましては、応募者に対して、自治会の活動に積極的に参加するとともに、八峰町の生活文化、自然環境への理解を深め、居住者としての自覚を持ち、よりよき地域住民となるよう努めることなどを記載した「誓約書」の提出を求めており、中浜地区分譲地においても同様の条件とすることを検討しているところです。

笠原議員ご提案の「公募条件の追加」のうち、「避難訓練の参加」につきましては、町が計画した訓練を行う際には必ず自治会の協力を求めていますし、自主防災組織による訓練が行われる場合も含めて、「避難訓練に参加する」ことは、「自治会活動へ参加する」と同義であると理解しています。

また、申し込みされた方々が、中浜地区分譲地が津波想定区域であることを強く認識し、防災への備えを確実にしていただくためにも「避難訓練の参加」は必要と考えますので、可能な限り避難訓練に参加するよう努めることを誓約書の内容に追加することについて検討したいと考えております。

「消防団への加入」につきましては、町の長年の課題である消防団員の慢性的な不足を心配する気持ちから提案されたものと理解していますが、ご存じのとおり消防団員は特別職の公務員であり、生業ではないものの、公務員の身分を得て、厳格な階級制度のもとで組織活動に従事することになります。

このため、消防団への入団及び退団は、義務や強制ではなく、本人の自由意思によることとされていますので、宅地分譲に関する公募の条件とすることまではできないと考

えています。消防団活動の重要性を丁寧に説明しながら勧誘に努めてまいります。

○議長（門脇直樹君） 9番議員、再質問はありますか。9番笠原吉範君。

○9番（笠原吉範君） 1問目についてですが、県や国の動向を見ながら検討するというものでありましたが、この質問するに当たりまして、シイタケ栽培農家に直接行って話を伺ってまいりました。先ほど町長が言ったように、灯油価格が1.5倍ほどかかると、昨年に比べまして。それで、この冬だけでもおそらく50万円から60万円ぐらいいのかなり増しになるんじゃないかなという話をしておられました。この状況が続くと、栽培を断念せざるを得ない方も出てくるんじゃないかなというお話をされておりました。

それで、昨今、少しくガソリンとか灯油とかもちょっと下がってきておるわけですが、今ここにですね日本総合研究所の原油市場展望というレポートがあります。これのですね今後の見通しについてちょっと読ませていただきます。「先行きを展望すると、新たな変異株の感染拡大により先行き不透明感が強まっているものの、原油価格は高値の水準が続く見込み。原油供給の拡大が穏やかにとどまる一方、世界的なエネルギー需要が旺盛である結果、需要の逼迫が意識されやすい展望が続くと予想」と。これが12月末に出てきたこのレポートなんです。まああくまでも予想ですので、このままいくとは限りませんが、突然こう前の去年の水準に原油価格が戻るということは非常に考えにくい。長期的なものになるのだろうと私は予想しています。これが漁業・農業に及ぼす影響というのが長引けば長引くほど、大変なものになっていくと思います。この辺について町長の見解をお聞かせください。

○議長（門脇直樹君） ただいまの再質問に対し、当局の答弁を求めます。森田町長。

○町長（森田新一郎君） 笠原議員のご心配されてる部分は、私も同じであります。こう農業・漁業だけでなく、建設資材にしてもあらゆるものが手に入らなくなっています。鉄の値段もめちゃくちゃ上がっているという話もあります。

シイタケの話をもっと最初にさせていただきますと、確かに、いわゆる需要と供給の関係ですので、新型コロナウイルス感染症で首都圏はじめ大都会の飲み屋街がみんなストップしてしまいました。最初はそこの部分で大きく単価が昨年と比べて下がってます。まあ一番下がった部分で8円とかそのくらいまで下がってるんですが、7月から上がってきました。そして今11月が、昨年が106.5円だったのが現在が、今年が96.89円というふうな形で、本来は鍋物需要の部分で上がるはずなのに下がったと。これはいわゆる全国で需要が、いわゆる米がこう皆さん順調に終わったもんですから、それでシイタケの栽

培に入って、シイタケの供給量が多くなったと。で、私の場合は、今、首都圏が飲み屋街全開になってますので、もう少し様子見なければいけないかなというふうな形で思っています。

それと、シイタケ農家の部分については、私どもまあいわゆる峰浜培養の部分で、ホダ木1個2円下げると年間250万個ですから、年間で500万円のコスト削減に繋がってます。その半年分、4月から9月までって形で半年分やりましたので、250万円。それからパックスセンターがこの部分で220万円ぐらい。まあ470万円ぐらいもう既に支援しておりますので、今11月に関して確かに単価下がりましたが、そこの部分はもう少し様子を見ていきたいなというふうに思っています。

それと、ほかの灯油価格の部分についても、笠原議員おっしゃったようにガソリンの部分では、4月あたり140円だったのが今160円まで上がって、今150円ぐらいになってます。このあたりももう少し様子見たいなというふうに思います。これはあくまでも国、県が、まあ全国的な問題ありますので、町単独というよりも、国、県も黙ってられない問題だと思いますので、その動向を見極めながら対応していきたいと思います。

漁業部分については、もう事業継続臨時交付金の部分で一番使う底引き網漁は全員、1事業者50万円供給してますので、またハタハタも今年結構豊漁なってますから、そういう意味でももう少し様子を見たいなというふうな形で思っています。

○議長（門脇直樹君） ほかに質問はありませんか。9番笠原吉範君。

○9番（笠原吉範君） 先日、新聞報道にもありましたように、漁業で言うと1回の操業で2万円ぐらいの去年に比べてかかり増しになってるというような報道もありました。様子を見ていきたいということですので、長引けば長引くほど本当にこう、まあ漁業者・農業者だけじゃなく困る人が出てくるわけですから、そういう市場の動向を注視しながらですね、そういう人たちに支援を考えていていただきたいということを申し上げまして1問目は終わりたいと思います。

○議長（門脇直樹君） 2点目は再質問ありませんか。9番笠原吉範君。

○9番（笠原吉範君） 2点目の町長の答弁、私の予想どおりの答弁でありました。

ここです、ひとつほかの自治体の例を挙げたいと思います。平成27年に行政視察で訪れた長野県の下條村というところがあります。ここはですね爆発的に若い人、移住者を増やして、奇跡の村とまで呼ばれたところがあります。どういう施策をしたかといいますと、ここではですね若者向けの集団住宅、いわゆるマンションを建設したわけで

す。で、マンション10棟、1棟1億1,000万円ぐらいかかったそうですが、10棟で124世帯分を提供した。で、家賃が大体3万2,000円から3万4,000円ぐらいということで、隣にあります飯田市というところのベッドタウンという位置づけでありまして、そこから124組の若者、子育て世代が移住してきたんです。で、その入居条件というのがあるんですよ。その中にですね、入居する若者が地域に溶け込んでいただくために、「町の行事への参加や消防団への加入等を入居条件にした」とあります。ここの村では消防団の加入を入居条件にしてるんです。

で、あれから7年経ちました。今どうなってるのかなと思って私ちょっとネットで調べました。現在もこの条件は変わりありません。この124世帯のうち、今空いてる部屋は2部屋しかありません。ですから、あの120何名もの消防団員が実際に増えていることになるんですね。これを聞いて町長の考えはいかがですか。

○議長（門脇直樹君） ただいまの質問に対し、当局の答弁を求めます。森田町長。

○町長（森田新一郎君） 八峰町の課題の部分は若い大人がいない。ここの部分に関していろんな分野にいろんな影響を及ぼしている。まあ地域コミュニティを維持、このひとつ自治会活動であり、消防団もその一つであります。その消防団の部分にその条件を加えたっていう部分は、それは町の部分でそれはそれでよろしいかと思うんですが、それと併せて、マンション10棟、124人でしたか、そういう形の部分の政策を打ち出せる。ここの判断っていうのも敬意を表したいというふうに思います。

私どもの場合、もしそういうマンションというふうな形で、マンションというよりもおそらく賃貸住宅だと思うんですが、これ前にも一般質問の中で議論して、私の頭の中では、いわゆる賃貸住宅の場合は移りやすく、いわゆるまた出ていく可能性もあるものですから、それよりも一軒家みたいなそういう形で考えたんですけど、そこの部分で結局、今笠原議員言いましたように効果を上げている政策を打ち出せる、ここの部分はすごいなというふうに思いました。

ただ消防団の部分については、これはやっぱり先ほど答弁いたしましたように特別公務員の部分ですので、強制はできない話ですから、いわゆる自治会活動には一生懸命参加してもらうことは条件にすることはできても、消防団までは、ここまでは条件にする部分についてはどうかなという感じは正直あります。そこの部分に関しては、消防団の大切さ、丁寧に説明しながら加入に努めていくというふうなそういう方針でまいりたいというふうに思います。

ただいずれ本当にうらやましいくらい。私、飯田市に行ったことあるんですが、あそこも非常に過疎地域なところなんです、そういう条件のある中のベッドタウンとして、そういう若者たちがそのくらいも村に移住してきてるといふうな話なれば、私も是非今コロナが落ち着いたら、そこを実際に皆さんが見学されたように私もこの目で見てきたいというふうに思います。

○議長（門脇直樹君） ほかに質問はありませんか。9番笠原吉範君。

○9番（笠原吉範君） 前にこの中浜地区中心部整備事業について私が一般質問した時に、町長は、中浜地区の活性化のために必要な事業だとおっしゃいました。若者が移住してきて住む、これはもちろん地域活性化になるわけですが、やはりその地区の住民と触れ合うことが最も活性化に繋がることだと私は思っています。町の行事もそうですし、消防団ももし入っていただければそれにこしたことはないのではないかなと思っております。

この当時の、今ちょっとそれ下條村というのは村長さん代わってしまったんですが、前の私たちが視察に訪れた時の村長さんというのは、地元で自動車整備とガソリンスタンドを経営していたそういう方だそうであります。いわゆる民間から村長になった方で、その方が一番最初に何をやったかという、近隣のホームセンターに職員を全員交代で出向させたんです。で、民間の感覚を身につけろということで。それで当然組合から反発が来まして、もう町長室から反対で来た役場職員の幹部をもう町長室の2階から投げやろうかと思ったぐらいだと、そのくらいの意思を持ってここまでにしたんです、下條村というところを。ですから町長もですね、まあなかなか県職員、元県職員ということで民間の感覚でやれって言われてもちょっと困ると思いますが、そのありきたりの施策では町を劇的に変えることはできないと思っております、私は。だから実際にこういう例があるんですから、で、中浜地区の整備事業はこれから始まるわけですから、これを起爆剤に若者と町民との交流も含めてですね、こういう移住対策に取り組んでいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（門脇直樹君） 当局の答弁を求めます。森田町長。

○町長（森田新一郎君） 本当に同感でございます。私がなぜ八森役場跡地をこの事業の候補地にしたかというのは、私はこういう団地的な、こう若者たちを定住移住させるためのそういう部分は、町のど真ん中に造るべきだといふうに思ったからです。端っこに造りますと、今、まあ町内にいろいろ団地ありますけども、そこの自治会の会長さんは嘆き節が結構あります。協力してくれない。でも町の真ん中にあれば、自然と子ども

たちはその中で遊びますから、当然親御さんたちはその子どもたちが地域の住民にいろんなお世話なっていますから、当然地域の皆さんに感謝しながら、当然自治会活動にも参加して、その自治会が若い人が入ってくる、子どもたちも入ってくるとなれば自然と元気となる、そういう部分は私が思ったところですので、そういう形の部分は今回の部分うまく成功させて、中浜地区でそういう自治会活動もよくなっていたらなというふうな形を願っています。

それと民間の感覚を職員にこう経験させるという部分。実は、前の前の寺田典城さんが知事の時に同じようなことの事業をやりました。やることはできるんでありますけれども、なにせ私ども八峰町の場合は正職員が104名という極めて少ない数の中で、民間の部分に1週間、2週間、そういうふうな研修させることができるのかどうか。まあその辺はほかの市町村の例も参考にしながら、県ではやったことありますので、できないわけではないので、そこの部分には検討させていただきたいというふうに思います。

私もやっぱり今までの同じ流れの中で同じような考え方で事業をやっていくことについては、今こうやって厳しい3つの問題、2倍のスピードで進む人口減少、極端な少子化、極端な高齢化、そういう部分を今目の前にしてる中では、今までと同じような考え方でやっても議員と同じ考え方で何も変わらないので、何とか思い切ったことをやりたいと思ってるんですが、思い切りすぎるとまたまたなかなか理解も得られませんので、その辺のバランスを取りながら考えていきたいというふうに思います。

○議長（門脇直樹君） ほかに質問はありませんか。9番笠原吉範君。

○9番（笠原吉範君） それこそ反対者もいる中で決まったこの中浜の中心部のこの事業ですので、是非その地区の活性化、町の活性化に繋がるようなですね、そういった公募者の選別なり条件なりそういったものを整えて、是非地区の活性化をしていただきたいということを申し上げまして、今日の私の質問を終わります。答弁は要りません。

○議長（門脇直樹君） これで9番議員の一般質問を終わります。